



11月に市内で行われたイベントについてお知らせします

日光いろは坂女子駅伝大会



総合6位の白鷗大学

11月26日(日)、第4回日光いろは坂女子駅伝大会が開催されました。今大会は東京農業大学や関西外国語大学、中央大学、白鷗大学など全国12大学13チームの学生が参加しました。

晴天に恵まれ、選手は日光だいや川公園から日光二荒山神社中宮祠までの6区間23.4kmで熱戦を繰り広げました。

4年連続の出場となった、大阪芸術大学は1区で首位となると、4区以降は独走態勢を守り、1時間32分53秒でゴール。初の栄冠に輝きました。

大阪芸術大学の白石莉理主将は「優勝を狙っていました。普段、練習している場所も坂がとても多いため、坂に強いことがチームの特徴です。今回の大会で、その特徴を発揮できて良かった」と表彰式の壇上で話しました。



優勝の感想を述べる白石主将

人権ミニフェスタ

11月12日(日)、中央公民館で人権ミニフェスタが開催されました。人権啓発や自閉症啓発のパネルの展示、障がい疑似体験教室、盲導犬教室などが開かれた他、書道家の涼風花さんを講師に迎えて「人権美文字筆講座」が行われ、35名が参加しました。

中ホールのステージでは、日光明峰高等学校合唱部が美しいハーモニーで「世界に二つだけの花」など5曲を披露しました。えりのあさんのライブでは音楽に合わせて、今市高等学校書道部と涼風花さんの書道コラボが行われ、人権についての言葉がつけられました。印象に残るパフォーマンスをした書道部の篠崎翔太郎部長は、「コラボをするにあたり人権についてたくさん考えました。本番は緊張しましたが、今までで一番いい出来でした」と爽やかな笑顔で答えてくれました。



人権委員が児童に「人権について」説明



今高書道部と涼風花さんのコラボ



みんなで人権の歌「世界をしあわせに」

日光そばまつり

11月17日(金)・19日(日)、日光だいや川公園を会場に、16回目となる「日光そばまつり」が開催されました。

今回は、県内をはじめ北海道から島根県まで、日本全国23店のそば処が来店し、3日間で9万1,000人の来場者が紅葉の空の下、そばを堪能しました。

また、各店舗のそば打ちの実演には、多くの人が集まり、職人の



おいしいそばで、みんな笑顔に



均等にそばを切っていく職人技

妙技に見入っていました。その他、そば打ち道具や農産品などの物産店も多数出店し、こちらも多くの人でにぎわいました。宇都宮市から来場した嶋田さんは、「昨年の秋は、焼きそばまつりに行きました。今回は、久しぶりのそばまつりです。今年のそばは、また一段とおいしいですね」とそばを頬張りながら話してくれました。



今月の表紙

日光国立公園マウンテンランニング大会



30キロコースのスタート

11月12日(日)に日光国立公園マウンテンランニング大会が開催されました。今大会は平成28年に続き2回目。30キロコースに加え、今回は新たに10キロコースを新設し、約940名が参加。秋の日光の自然を楽しみました。

トレイルランニングは未舗装の山道を走るスポーツです。日光東照宮表参道がスタートとゴールで、霧降高原のキスゲ平園地などがコースとなる高低差約1,000メートルをランナーたちが駆け抜けました。コース途中に設けられたエイドステーションでは、ようかんやたまり漬、湯波など日光の名産が並び、ランナーたちは笑顔でひとときの休息を楽しみました。

30キロコースは上田瑠偉さん(東京都)が3時間3分3秒で優勝しました。



霧降高原で絶景を楽しむランナー



大勢の来場者で通りが埋まる盛況ぶり

焼きそばまつり

11月19日(日)、JR今市駅前通りで焼きそばまつりが開催されました。県内外から30店が出店し、会場には食欲をそそるソースの香りが広がりました。焼きそばは、定番のソース味や塩味、しょうゆ味の他、カニやホルモン、あんかけ、スープが入ったものもあり、来場者は食べ比べを楽しみました。投票の結果、「日光ラーメン研究会」がグランプリに輝きました。



代表あいさつをする池野氏

市政・教育功労等表彰式

11月23日(木・祝)、今市文化会館で、平成29年度市政・教育功労等表彰式が開催されました。これは、市政や教育行政に功労のあつた方々や模範児童・生徒の表彰を行うものです。社会福祉の部門で市政功労表彰を受賞した池野亮子氏が受賞者と、会場は盛大な拍手に包まれました。



「やい強力、料理を持てえ」

子供強飯式

11月25日(土)、七里の生岡神社で「子供強飯式」が執り行われました。子供強飯式は山伏と強力に扮した2人の子供が登場し、祭神からの高盛りのご飯を無理やり氏子の2人に食べさせる儀式で、七難即滅、七福即生(災難がなくなり幸せになれること)を祈るものです。山伏を日光小3年木下泰暉君、強力を同石川莞太郎君がそれぞれとめ、山伏が「や



「一粒でも残しては、ならん」

い強力、料理を持てえ」と大声で口上を述べると、強力はお膳を前にした氏子に「一粒でも残しては、ならん」と鋭い目つきで責め立てました。大役を終えた2人は「言葉や振り付けが難しかったけど、たくさん練習をして十分に成果を発揮できて、楽しかったです」と話してくれました。生岡神社の子供強飯式は市の無形民俗文化財に指定されています。